



WAR IS PEACE

高島 亮三

紙

今日の世界では「力強さ」を是とし、その中身を検証せず、ひたすらそれに追随する閉塞した空気(権威主義パーソナリティー)が蔓延していて、それは日本でも例外ではない。

そのような動向に思うところがあり、ここ数年はジョージ・オーウェルの小説「1984 年」に描かれている全体主義国家の掲げるスローガン、「WAR IS PEACE. FREEDOM IS SLAVERY. IGNORANCE IS STRENGTH.」(戦争は平和なり。自由は隷従なり。無知は力なり。)をテーマにした作品を制作してきた。

本作は、相手を攻撃する事で自身の安全(立場)を一方的に願うかのような、倒錯した今日の社会的動向を、千羽鶴の様式に置き換え表現した。

作品タイトルは上記のスローガンのから「WAR IS PEACE」を引用した。本作は上記のコンセプトで、2017 年に発表した作品であるが、それから 10 年近くたった 2025 年現在でも、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ侵攻など、「強者の論理」が、ますます幅を効かせる状況において、本展を通じ、改めて、この作品を世に問いたいと考えた。